

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名			
○保護者評価実施期間	2025年 4月 1日		～ 2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 12
○従業者評価実施期間	2025年 4月 1日		～ 2026年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 30日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育士が多いので、遊びを中心とした活動を展開している。	室内での活動では、なるべくおもちゃや本などをいつでも使えるように環境設定をしている。	個々に合わせた玩具の購入や、カードやサインなどを用いた方法で、個々の発達に合わせた促しを行い、個別の対応を図る。
2	家庭的な環境の中で、利用している児童がありのままの姿で過ごせる空間づくり。	休息のできるスペース、遊びのスペース等、使い分けができるようにソファやマットなどで構造化を図る。また、それぞれの活動の影響を極力減らすため2部屋を静の活動を中心とした部屋と動の活動を中心とした部屋というように使い分けている。	利用している児童と一緒に遊びを通して関わることで、より社会性やコミュニケーション面を身につける機会に繋がってきたい。そのために必要な研修等もあれば積極的に参加していきたい。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	バリアフリー化は十分にされておらず、駐車場が事業所から離れている。	民家を改築したため、工夫できた部分とそうでない部分が生じている。駐車場から事業所までの通路も整備が行き届いていない箇所もある。	事業所だけでなく、隣接している事業所や法人運営側に相談をしている状況。自分たちで整備できるところは整備していく。
2	様々な障害や発達の特性についての研修が必要である。	月1回程度研修は実施しているが、頻度や時間が少ない。	事例検討会に参加することや、法人内の放デイが合同で集まる際に支援について学ぶ機会を設定して、自事業所で実践を行い続けていくことが必要。
3			